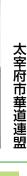
## 季節の生け花



太宰府短歌会

## 相手の気持ち うらの声

仮殿に凛と飾られ花菖蒲

馬場

有岡

和砂

新樹風客は五人の縄電車

筑紫野市

名本

剛

太宰府俳句会

持永

真理子

選

宝満句会

菅井

久美子

選

太宰府小5年(応募時) 遥さん たくしま **多久島** 

やれやれと白玉だんご口にする

五条 兼田

和加子

街路樹の深まる新樹海の色

大佐野台

金丸

恵子

古墳めく丘に茅花流しかな

国分

松尾

満子

山門を入れば燃え立つ新樹かな

高雄台

川路

泰子

梅雨さなか家庭菜園ままならず

高雄

西元 治雄

限りなく目には優しき新樹かな

星ヶ丘 江里口

幸生

気づいてあげて

権標語



### 久\*\* 子\* 花材 コニファー、ききょう、つた (太宰府市水城区) 池坊

向<sub>b</sub>b,

ヨーロッパの香り夫との香り 街路樹のマロニエの花咲き始む 大輪の白ばら一枝鉢に立つ

安静に過ごす酸素マスクで手術終ヘストレチャーにて三時間 ジャンヌダルクの如くスックと

猪俣

可愛く老いたしコスモスの花少しずつ能動態から受動態へ

大穂 聡子

見透す如しナースの言葉は脈拍の乱れを訝り我が心

咲子

玉本 朝子

礒村 順一郎

草笛の響く夕べや星光る

泰夫

草笛の一節吹けてより素直

観世音寺 野田 杉子

## 飛梅句会

介弘

紀子 選

草笛の風となりゆく夕野かな

福岡市 工藤 友子

草笛の高音に雲の流れゆく 大野城市

田代 りえ子

母許の変わらぬ暮し胡瓜苗

長浦台 徳賀 美智子

馬場 野上 コト子

幼子の額の湿り立夏かな

筑紫野市

太宰府川柳倶楽部 小池 一恵

書くカスマホ時代に試される 都府楼 杉 良子

何故戦怯える子らにもらい泣き

観世音寺 河原

明子

言い得て妙ことばが弾むコラム欄

星ヶ丘 武末 次生

浜名湖のうなぎが繋ぐ子の便り

観世音寺 松浦 ちえ

なぜなぜと幼子の問いうろたえる 大野城市 高巣 富美子

馬籠宿早苗田までも江戸情緒

小郡市

宮原

勝彦

戒壇院会釈し過ぐる新樹道

筑紫野市

羽野 喜久代

# 都久志てんじん句会佐々木甘露子

白孔雀羽根広々と薄暑光

青葉台 彦坂 正学

壁に掛く母の絶筆夏に入る

福岡市

宮津英里子

分蜂の老木めざす新住まい 筑紫野市 日永田忠孝子

サックスの音色遥かに立夏かな 塩飽たか子

志帆

選